

# BLACK & ROSE ZERO

— 終 —



クロちゃんはお

一人で旅をしてて  
寂しくなったり  
しないの？



ふー

ルル

何だよ!!

ローズアンタ  
分かってないわね〜

分かってないわ〜

二回言った事で  
加速する怒り!!

孤独なんて  
ありえない

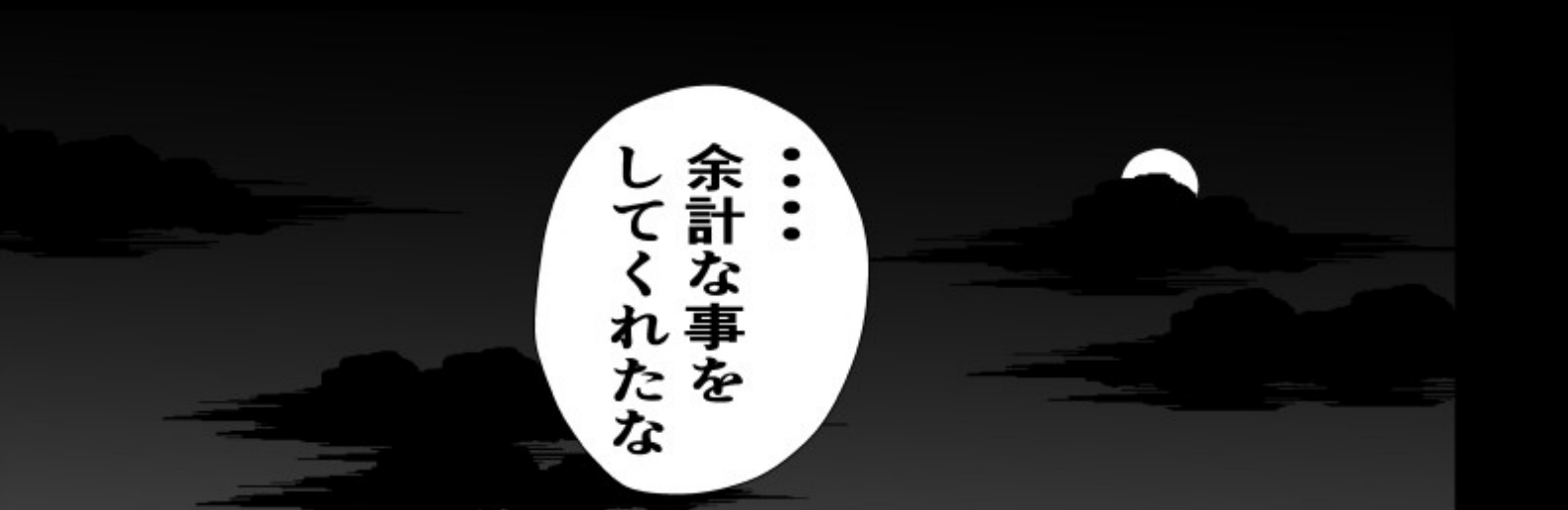
……どうゆう事？

それはねー

どこにいて  
どんなことを  
していいようが

孤独になんて  
ならないわよ





余計な事を  
...  
してくれたな



半端モノが...



…  
なるほど

血の流れを  
止めているのか

だが無事な組織を  
繋ぎ合わせた  
応急処置に  
過ぎないが…



…  
その程度ならば  
能力を使いこなせ  
ているようだな





だったら少しは心配  
いや早く病院にー



ふ・ふぎけんなよ！  
お前クロちゃん  
の仲間なんだろ？！







アタシが  
助けるから  
ジャマすんなよ!!



と言っている

喚くな







# オオオオオ



本質的には  
お前と同じ事を  
しているだけだ

なんだ？  
何を驚いている？



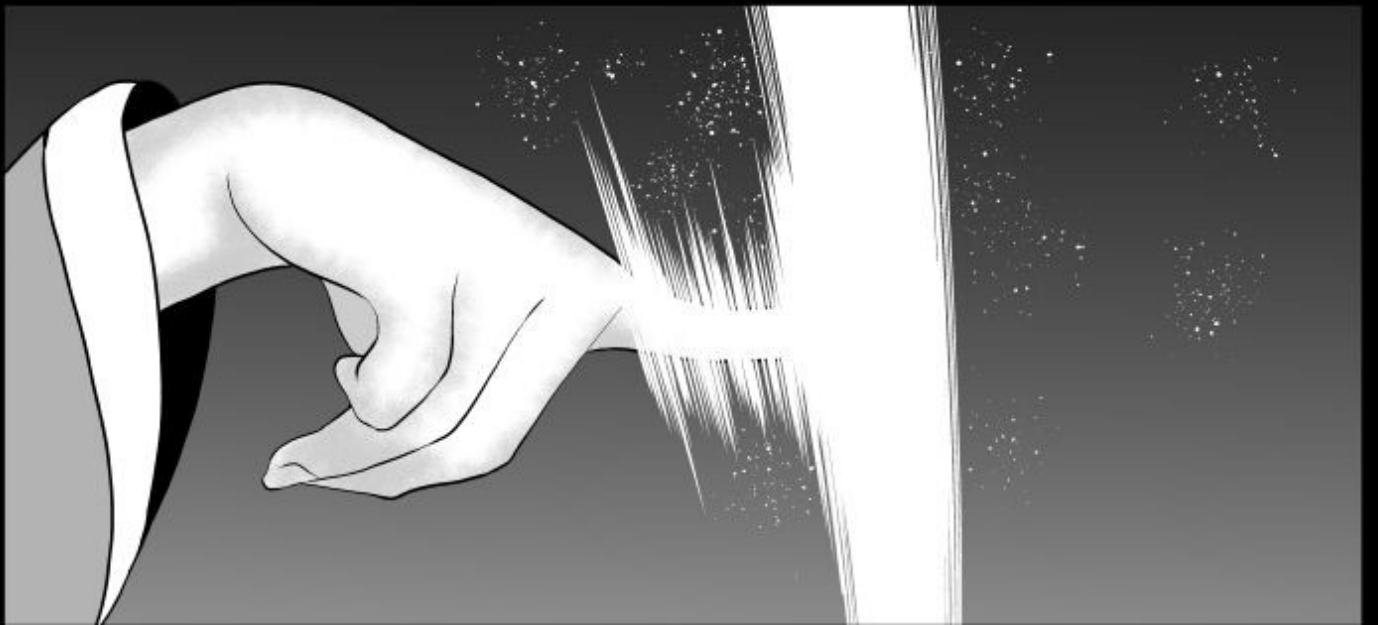
!!

威力は  
此方の方が  
格段に上だかな

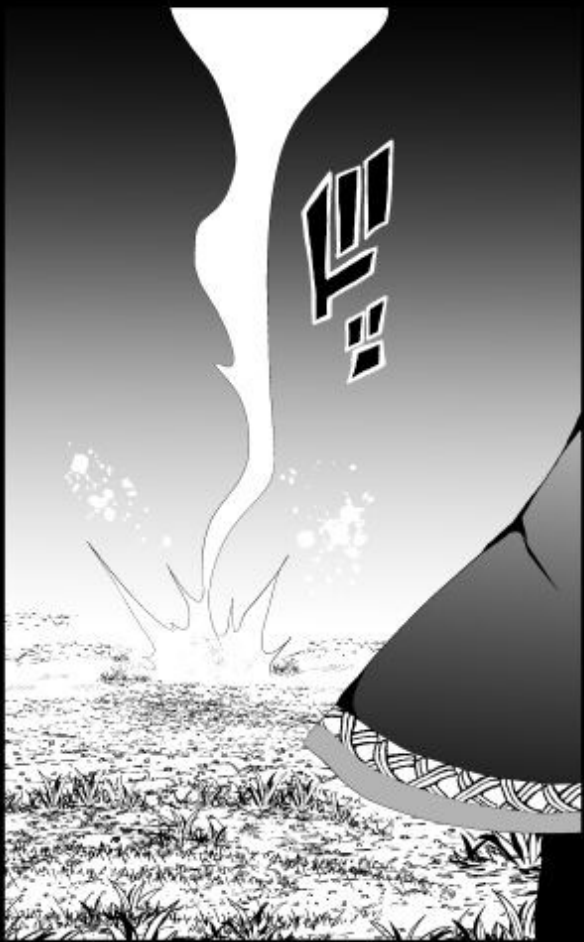


だがまあ

# オオオオオ



がああああ!!





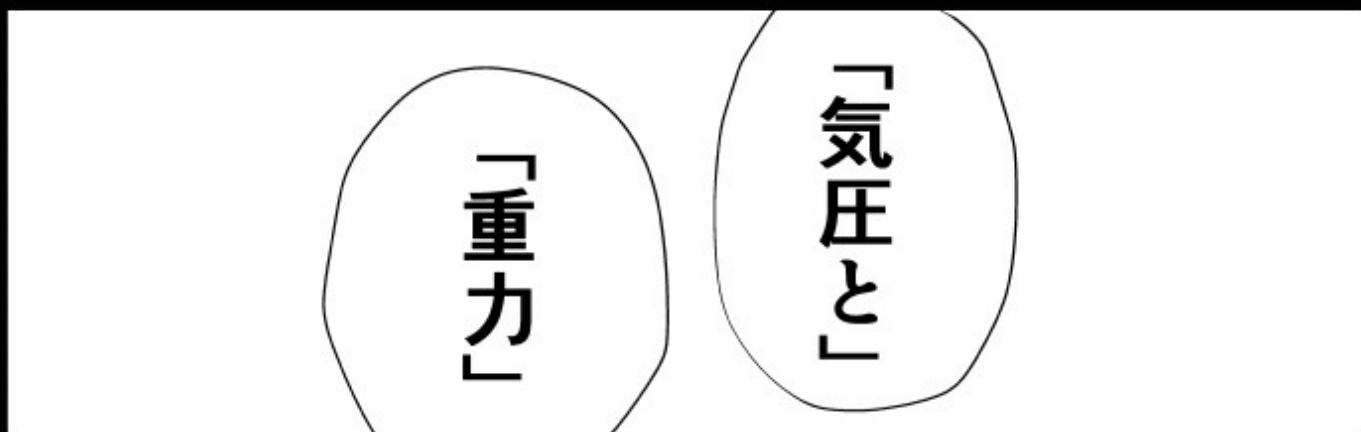


けほっ

ぐっ

ハア

っっ



「重力」

「気圧と」



!




何だまだ分かって  
いないのか？



な…にを

半端モノにしては  
上出来だな

能力として  
扱えるのは  
その二つか…



お前は人間と  
イーバのハーフだろう

人種に当てはめれば  
お前は  
ヨーロッパ人だ



ならば


イーバとしての  
種はドコになる？




そう  
お前は—

私と同じ種の  
血を引いている  
ハーフだ







お前の生い立ちは  
調べている




孤児として  
施設で育ち  
能力が戦闘向きで  
ある事がわかり  
ガイアに入隊した




その過程で  
気付いた筈だ




自分の周囲に  
人が集まって  
来ないことに




私達の種は  
能力が  
強大過ぎる故に  
無意識に圧を  
かけてしまう



私達の近くに  
いると相手は  
常に緊張状態に  
晒される



だからこそお前は  
ガイアの任務に  
精を出した




最年少で  
部隊長を  
任されるくらいに

居場所が  
欲しかったか？


仲間が  
欲しかったか？



その結果が  
コレだろう



最初の戦闘時に  
お前の服から  
奪ったモノだ



中身は  
睡眠薬に  
安定剤

お前—



不安障害に  
苛まれているな



返せ!!



まさか唯一の種の  
生き残りが

このような  
半端モノだとはな:



返せよ:





人間の脳で  
最優先されるのは  
生存だ

生き死にの  
世界には当然  
拒否反応を示す



返・せ

良いのか？  
黒橡を  
放っておいても？



クロー！



ハーフ故の  
苦悩か：

カカカカ

ピカ

カカカカ





おええええ!!

うえ

ケホ



げっえ

ハーフ故に  
能力もまともに  
使いこなせず

うえ

あっ



だから先程から  
言っているんだ



戦いにおける  
覚悟も持てず



友も助けられず

お前は  
半端モノだと







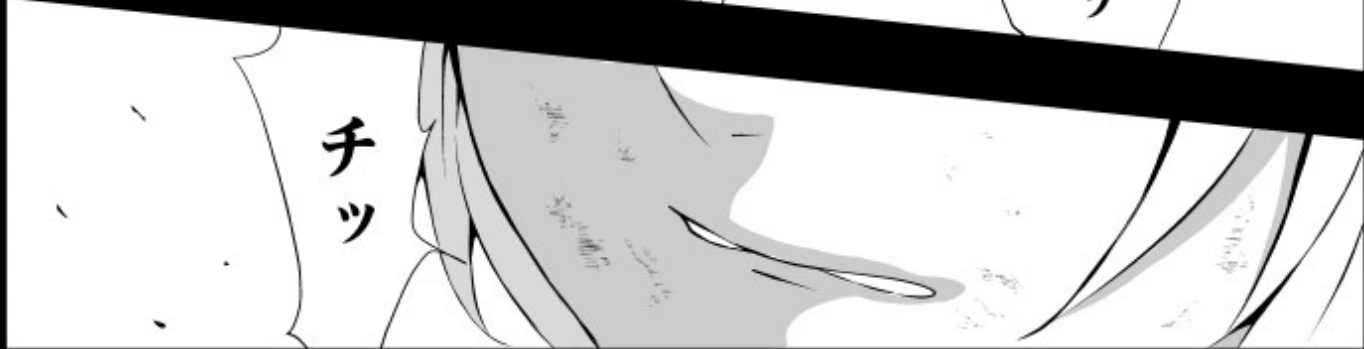
オオオオオオ



しくじったな…



…ビ…オラ



チッ



なんて  
ツラしてんだよ  
テメエエエ!!



大した  
問題ではない





ねじ伏せるだけだ

ねじ伏せるだけだ





貴様の能力は全部ガイアの内部資料から把握済みだ

ガイアの  
上層部を裏で操り  
分身の能力を  
持つ奴と戦わせ

監禁して  
研究対象と  
されたことなど

貴様は知る由もないことだが



逃げろ！

ビオラア！！





貴様のような奴を  
見てると殺したくなる



無思慮に  
相手に噛みつき  
吠えるだけ

そのくせプライドだけは  
一人前の弱者が







それらの  
現象を把握し

解析する

ソレが私達の  
能力の本質だ

そしてー

それはもう  
終わっている

掌握している





A black and white manga panel. On the left, a character with short hair and small horns is shown from the chest up, looking towards the right. The character's body is heavily textured with a stippled effect. A large speech bubble on the right contains the text. The background is dark and textured, with several large, stylized sound effects scattered throughout. In the bottom left corner, the top of another character's head with long, spiky hair is visible.

「ガイア」は  
もう終わりだ

ド

ド


ド

ド

ド

ド


ド




水面下で私はガイアの  
上層部の連中を  
裏で操ってきた

主に政治家及び  
官僚機構との  
癒着関係の示唆


そして部隊の情報を  
得ると同時に  
反イーバ団体に  
上層部の癒着の  
証拠を流してやる



今頃ガイア本部は  
反イーバの連中の  
暴動対応している  
頃だろう



そして他の  
ガイアの精鋭部隊にも  
私を手配した犯罪者を  
向かわせている



最初から  
お前達は私の  
手のひらの上で  
踊らされていたんだ

カカカカ



もうすぐこの街は  
混沌と化するだろう



ガイアの壊滅  
犯罪者増加による  
治安の悪化



ん...

ク...



ちゃ...

クロ...



...お前と  
黒橡の  
関係性は  
予想外だった

最初にお前の所に  
黒橡を  
向かわせることで

対立構造を作りだす  
つもりだったが

まさか一匹狼の  
黒橡がお前の事を  
気に入るとはな

しかしそうなることで  
お前が黒橡というあいだ

ガイア関連の  
計画は進めやすくは  
なったが

もはや

詮無きことか





なんて  
顔してんのよ  
アンタ

ズッ







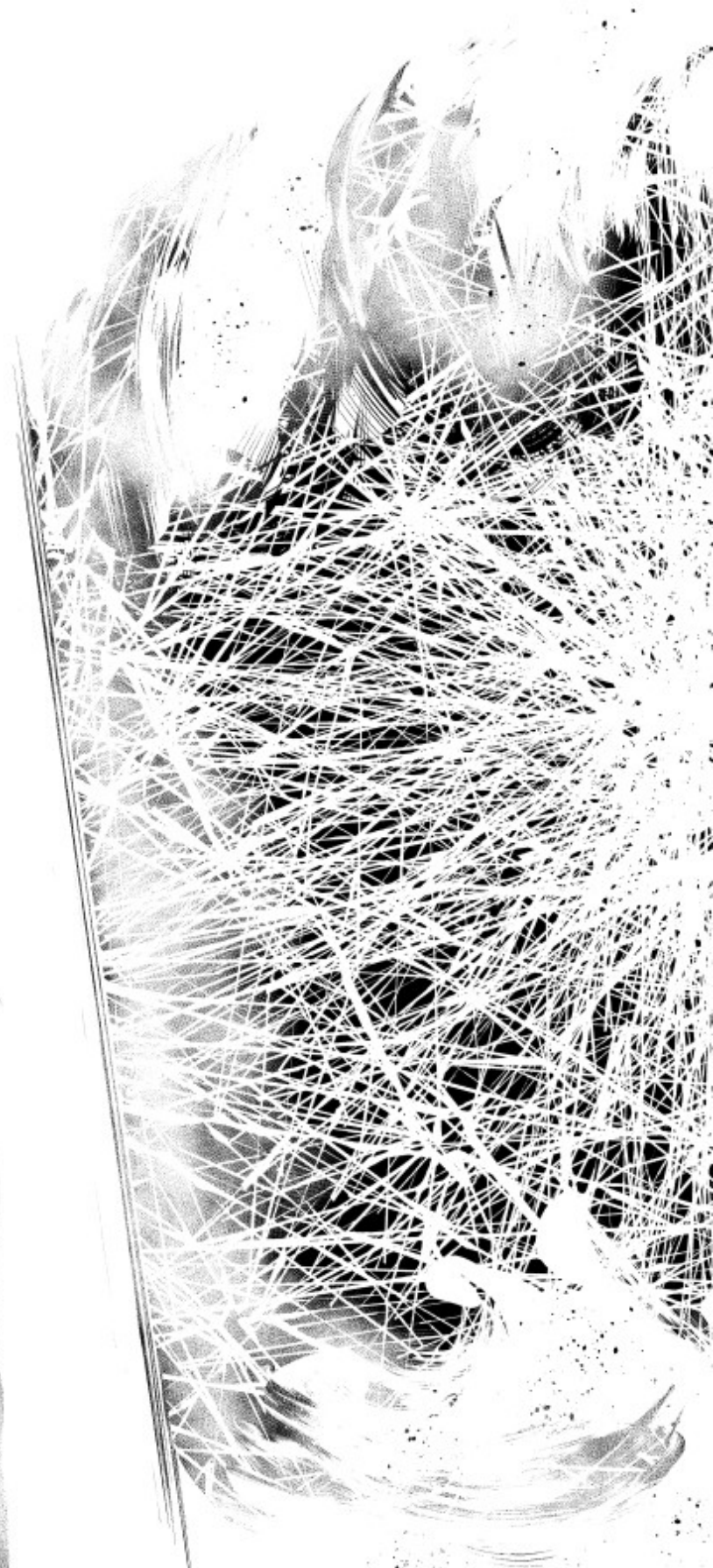
終わりだ





91476





超瞬間移動

黒橡の能力  
そして彼女には  
もう一つ

他人に  
数秒間だけ  
能力を付与できる  
チカラがある



先程ローズに  
ソレを使用し  
その力で  
逃げるように諭した

ハズだ：



ならば  
コレは何だ!?


黒椽と戦った時に  
彼女が見せた  
能力の片鱗:

なぜコイツが  
使えている?

いや:

先程私は

何と言った!?



私は言った  
ハーフ故にコイツは  
能力を使いこなせて  
いないと

ならば  
黒橡自身も  
そうだったのでは  
ないのか？



そして私は  
私達自身の  
能力の本質は

「解析」だと  
言ったのだ


ならば黒橡が  
ローズに能力を  
一時的に付与したことで—

黒橡本来の  
チカラを

無意識に解析して  
いるのか!!

ローズ：


それはねー



全ては  
繋がっているから



?




例えばね今こうして  
私達が話してる場所は  
沢山の人が泣いたり  
笑ったり怒ったりした  
場所

それを何千年も経て  
私達の物語ができて


そしてそれは  
また続いていく  
繋がっていく

その一部だと  
感じれたら  
寂しさなんてない



…  
あたしには  
よくわからないんだねえ

アハハ！



そっかそっか  
じゃあ簡潔に言うわ



ローズに  
出会えたから  
寂しくない



台無しだよ  
バカヤロー

：いや見てて  
飽きないかな？

全ては繋がっているー

人種だけではなく

生物だけではなく

全ての現象

全ての存在は時間を超え  
否応なく繋がっている

アタシは  
ソレを表現する



ソレを掌握する



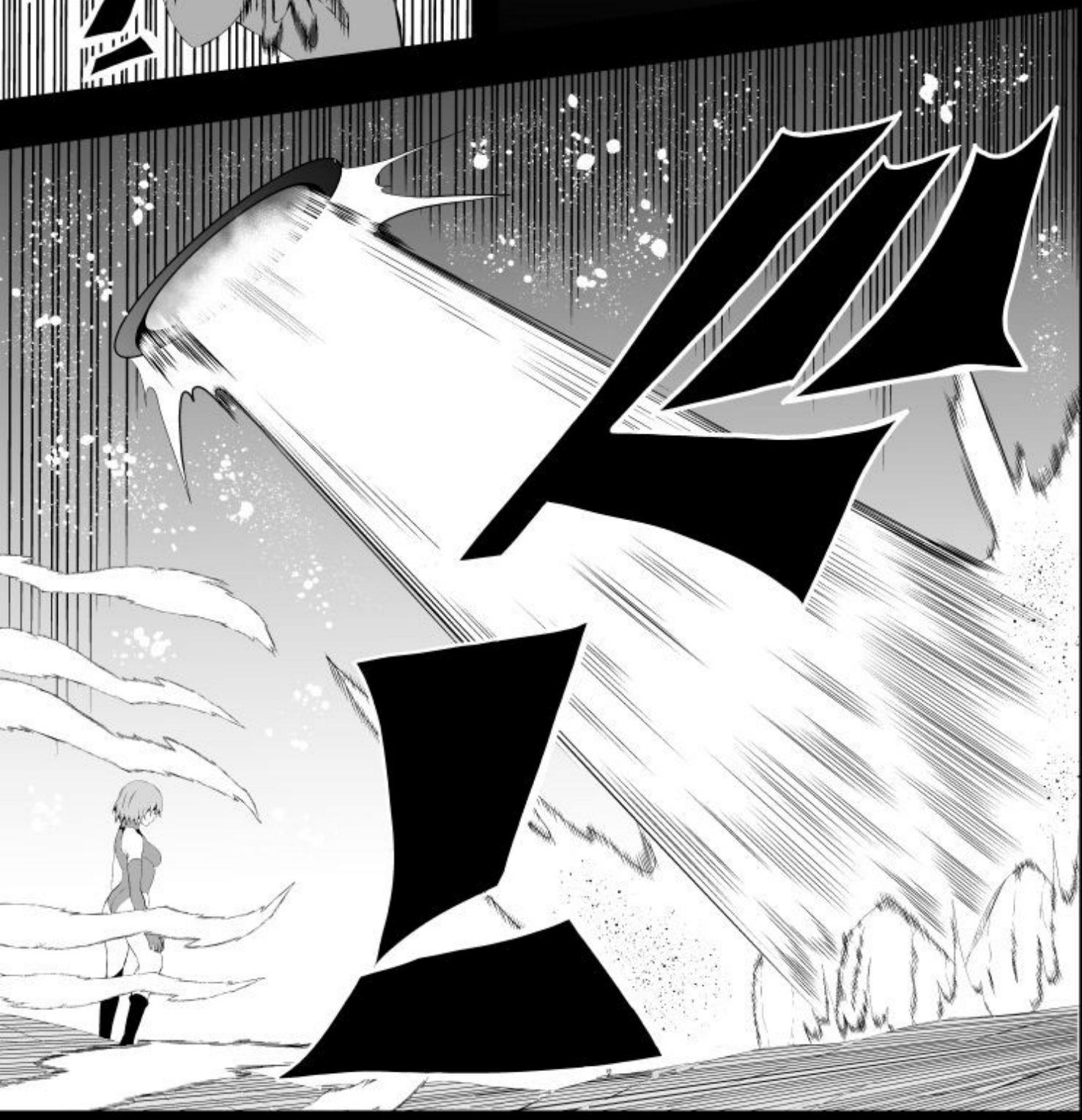
次  
元

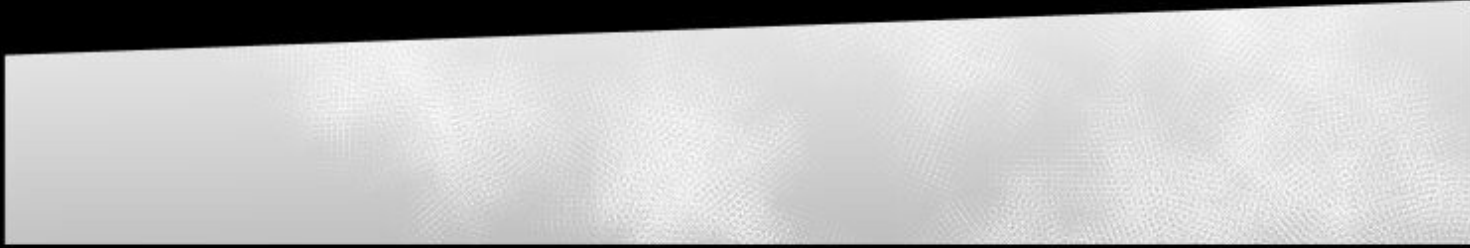
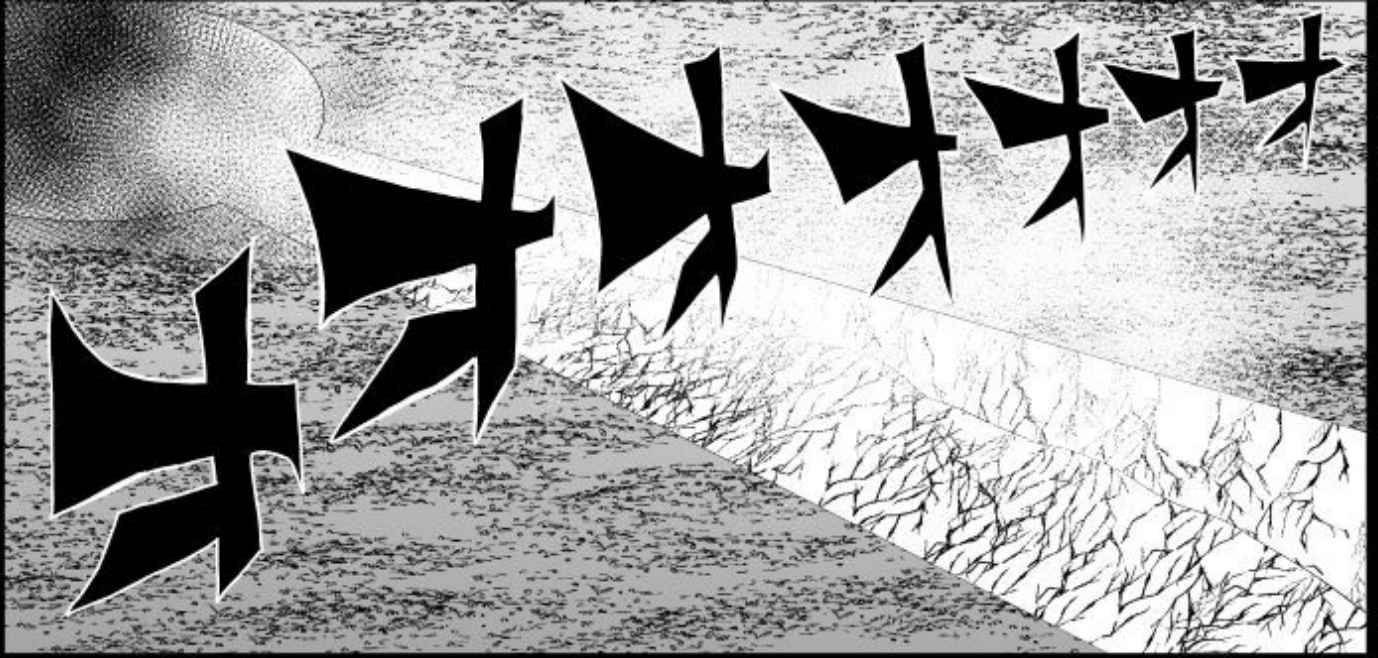



掌握











私達の種を  
淘汰した能力を  
お前が使うとは：


オオオオオオ



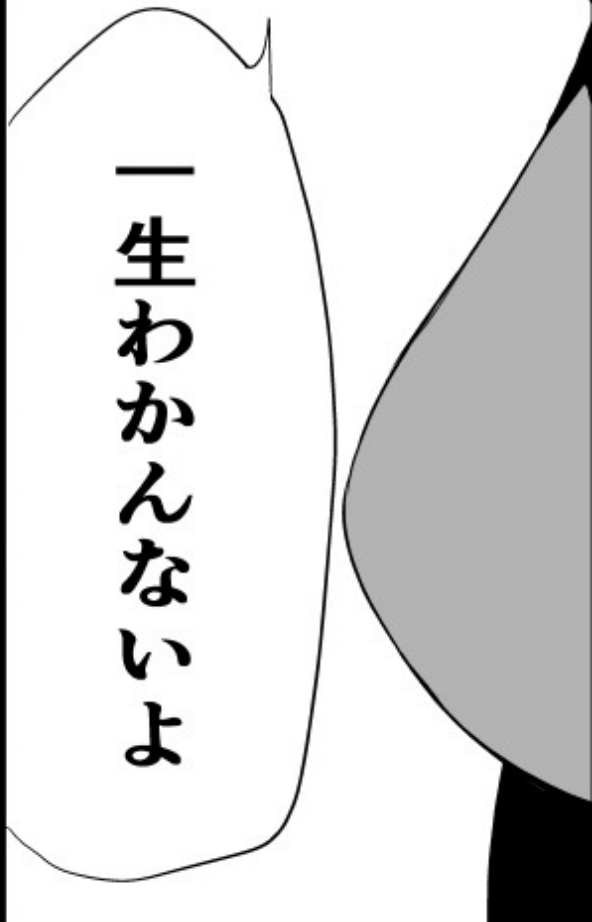
そのチカラ  
是非とも  
モノにしたい




無理だよ



繋がりを  
切り捨てる  
お前には



一生わかんないよ



：ガイアの  
部隊長に

最年少で  
成り上がった  
お前が言うのか？



だからだよ



だから私達は――

クロちゃんの  
気高さを

好きになつたん  
じゃないのかよ

…吠えるな  
半端モノ

適者生存が  
この世の本質だ

…なら



お前

い・ら・ね・え・よ



ああやつと  
実感したぞ

クハハハ!

…  
クク



やはりお前は  
私と同じ種だよ



不要ならば破壊して  
排除するまで!!



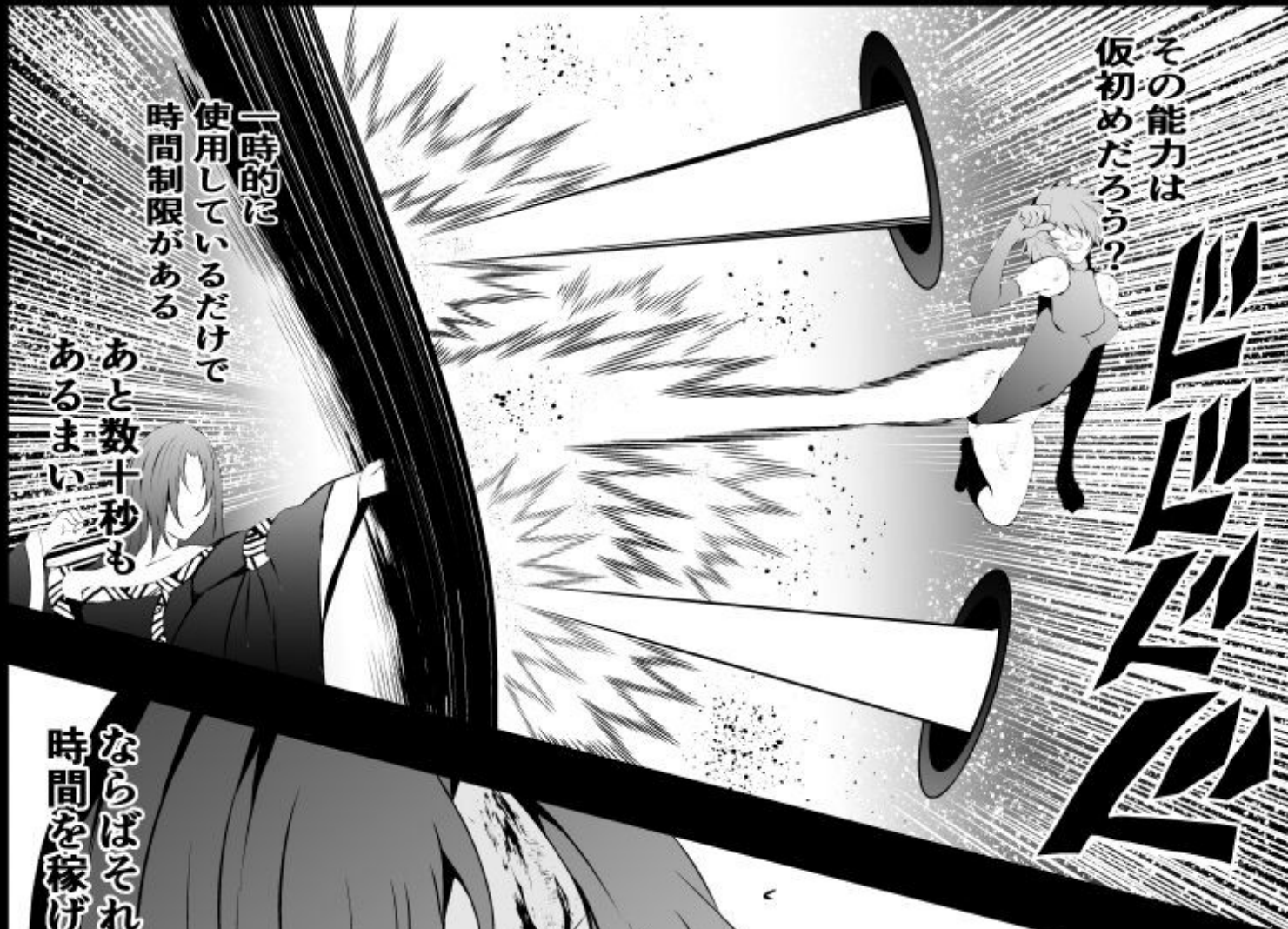


ユイツとこのまま  
戦り合っ  
ていても

押し切られる



だが分かるぞ



その能力は  
仮初めだろうか？

一時的に  
使用しているだけで  
時間制限がある

あと数十秒も  
あるまい

ならばそれまで  
時間を稼げばー



なめんなよ!!



ククク

だがな





カカ  
カカ

おえ

がっ

おっ…



あっ？

ぐ…ぎゅ



ぐっ

カ：ラダが  
：動か：な

かっは

トカ



やはりそのチカラ  
半端モノのお前には  
負荷が強すぎる



体中の筋肉や  
骨が悲鳴を上げ  
失禁までしているな

カカ  
カカ

カカ  
カカ

「空間認識  
把握」

「気圧・原子  
認識把握」

「地点の距離  
認識把握」

お前の周囲全部を  
粒子に変えてやろう



# 「森羅万象」













ひとつ

最後に戯言を  
言っておこう

もし私と黒橡の  
戦いにお前が  
邪魔をしなれば

勝っていた  
のは黒橡だ

そして黒橡は  
英雄として  
名をあげていただろう



しかしお前が  
割り込んだおかげで  
黒橡は私の組織の  
仲間として犯罪者になる

これからは  
奴は茨の道を  
辿ることになる

どうだ？友の  
黒橡の未来と道程を  
奪った心情は？


ごちゃごちゃ  
うるせーよ



世界とか

イーバの為とか

全部が全部  
どうでも良くて



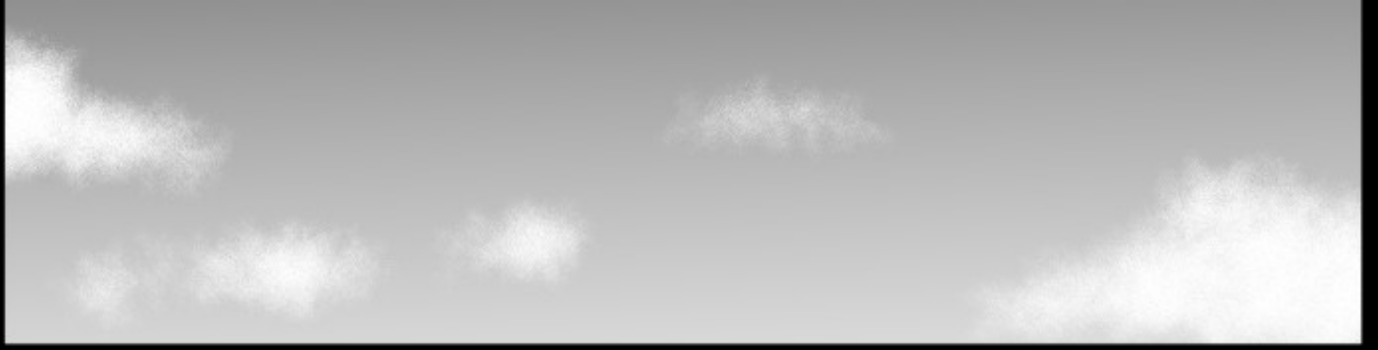
お前はただ

クロちゃんと友達に  
なりたかっただけだろ



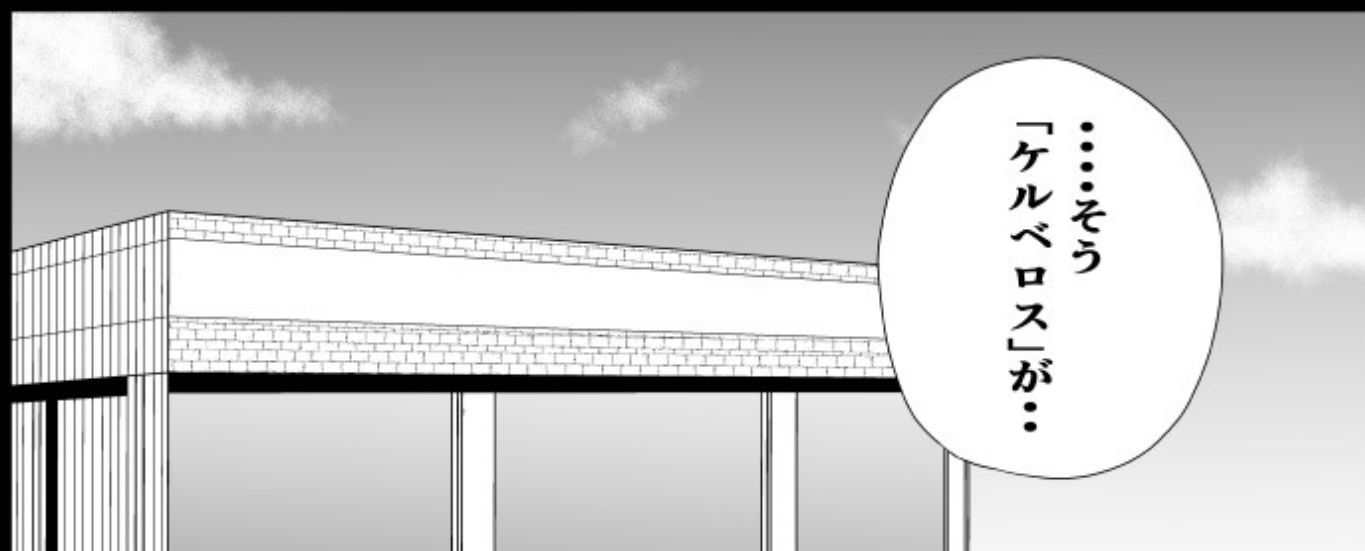
戯言・だな

それ・こそ





ローズ：



…そう  
「ケルベロス」が…



実はガイアも  
崩壊状態で

組織として  
成り立たなく  
なりました

何デ!?

ボス：  
ロベリアが  
部隊の構成員を  
ほとんど殺害と

ガイアの上層部を  
ぐちゃぐちゃに  
したせい

：アイツ  
しっかり爪痕  
残してるわねえ

それでこの街の  
治安が悪化  
警察だけじゃ  
対処できないから

つまりイーバは  
イーバで対応  
させる訳ね：

働きに応じて  
減刑されるし  
何より

ガイアが組織を  
立て直す短期間の  
あいだまでだけど

へー  
じゃあアンタも  
ガイアの隊長として  
大変じゃない？

……だ

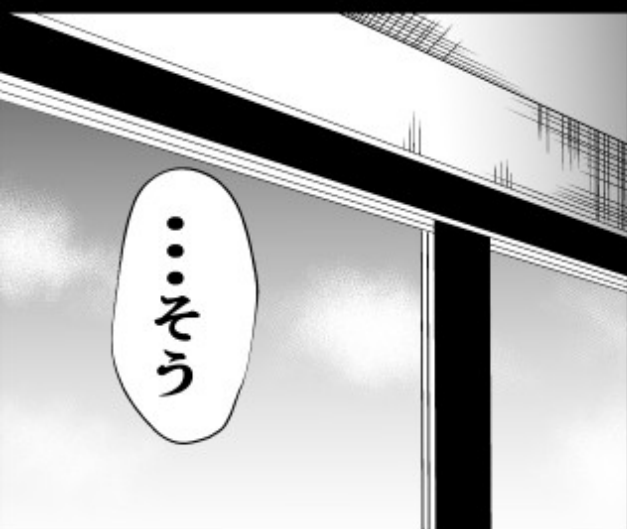


……元々  
向いて  
なかったんだ

なのに無理して  
戦ってクロちゃんにも  
迷惑かけちゃった



アタシ  
ガイア辞めたんだ



……そう



……ゴメン……



……え？



ローズも一緒に  
賞金稼ぎやるのね！



え？

ガイア辞めて  
賞金稼ぎやるん  
でしょ？

ナンデ？  
何で  
そうなったん？！

アタシ  
パニック！！

いやだって  
本当にさー




やりたくなくて  
嫌なことだったら


そんな  
カラダ張ってまで  
戦わないでしょ…




それは：



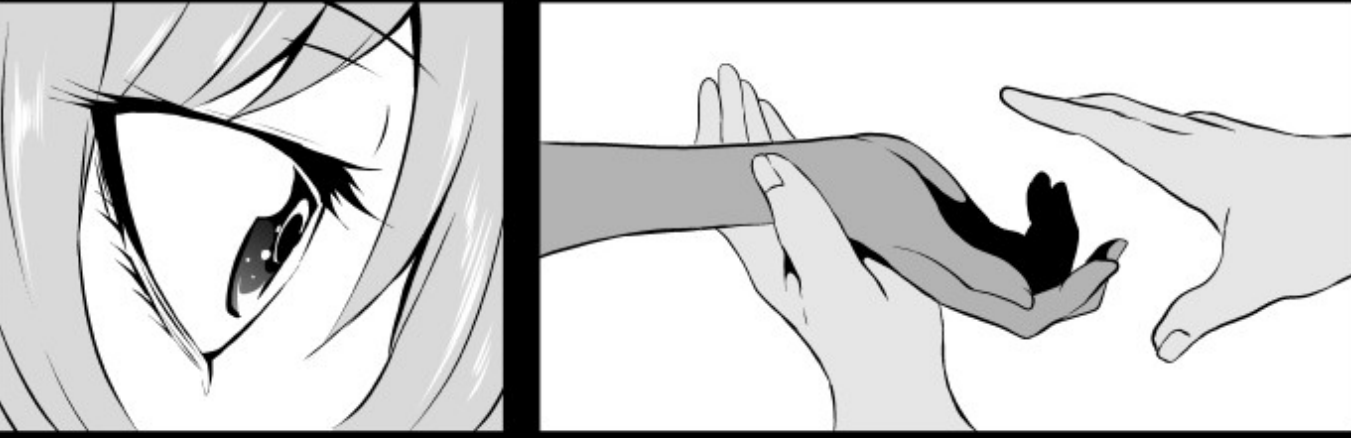
あと謝らないでよ  
この状況は私が  
自分で選択した  
結果だもの




たぶんロベリアの  
近くにいた重要参考人の  
私がこの程度の処分で  
済んでるのは



アンタが裏で  
手を回して  
くれたんでしょ？



そしてアナタは  
私を命がけで  
守ってくれた



その行為には  
義が通って  
情があったと  
確かに思うから

私は一人の  
友人として  
アナタを誇りに思う

見た目は  
オレンジ大好き  
小動物って感じ  
なのねえ

ありがとう  
ローズ……

うおおお!!

って  
ちょっー

**ピサッ**

**お**



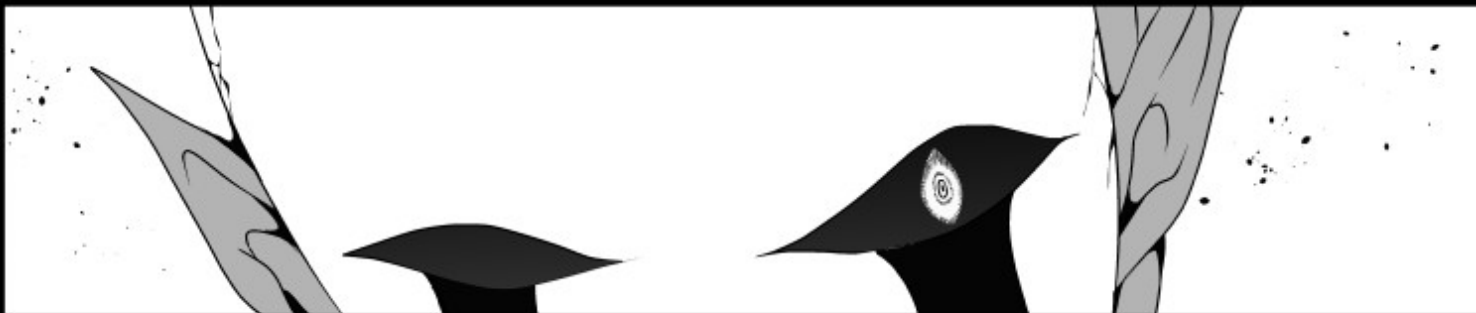
台：無し  
なん：だよ

だか：ら



バア……カ









これは  
重さにして  
百キロはあるんだよ

は!!  
よくそれで  
動けるわね

随時重力操作  
してるからね

気圧を操る時は  
このアーマーを  
介して攻撃するのだ!

なんかすごい  
縛りプレイね

これで敵は  
即死から半殺しに  
なるのだ!!

ごめんやっぱ  
そうでもないわ

でもー



……そうね



殺しちゃう  
よりは良いよ



……まあ



殺しちゃうと  
賞金減っちゃうし

だからクロちゃんも  
ナイフと剣捨てたの？



そんな所かな……



別にコレが  
動きやすいし〜

あっじゃあ  
ランチのあと  
服買いに行きましょう！

え〜  
めんどいんだよ

近くに美味しい  
オレンジジュース  
出してくれる店  
あるけど

オレンジ♪

あとせっかくだし  
髪も伸ばしたら？

ジャマくさいよ〜

キレイな金髪  
してんだら  
もったいないわよ

う〜ん  
似合うかな？



似合うわよ  
きつと：

ご購入ありがとうございます  
ございました！



※この物語は  
フィクションです。

実在の人物・団体・事件などには  
いっさい関係ありません。

本作品の  
無断転載・加工・複製を禁じます。

尚18歳未満の  
閲覧・購買は禁じます。

サークル

**Aries**